

# 宮崎県 令和5年度 第4回実証地域連絡会議 発表資料



宮崎県教育庁  
高校教育課 学校教育計画担当

配信校 延岡高校  
五ヶ瀬中等教育学校

受信校 高千穂高校



配信校 宮崎南高校  
日南高校

受信校 福島高校

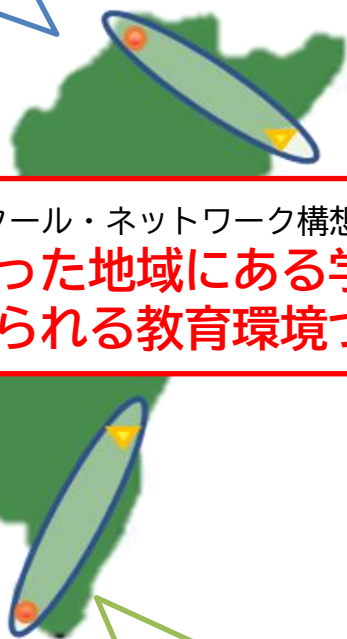
- ・高千穂町(人口約1.2万人)に唯一の高校
- ・1学年4クラス 全生徒数 265人  
(普通科2クラス、商業系学科1クラス、農業系学科1クラス)
- ・定員充足率約54%
- ・延岡市(近隣の都市部)まで車で約50分

### 背景の共通点

- ① 市町に唯一の県立小規模校
- ② 定員充足率が50%強(近隣の進学校への流出)

- ・串間市(人口約1.7万人)に唯一の高校
- ・1学年3クラス 全生徒数 203人  
(普通科)
- ・定員充足率約56%
- ・宮崎市(近隣の都市部)まで車で約1時間40分

配信校 延岡高校  
五ヶ瀬中等教育学校  
受信校 高千穂高校



【コアハイスクール・ネットワーク構想】  
生まれ育った地域にある学校で  
学び続けられる教育環境づくり

Point



配信校 宮崎南高校  
日南高校  
受信校 福島高校

## 課題

- ① 多様な生徒に対応するための教育環境が不足
- ② 地域の核としての学校の魅力が浸透しない

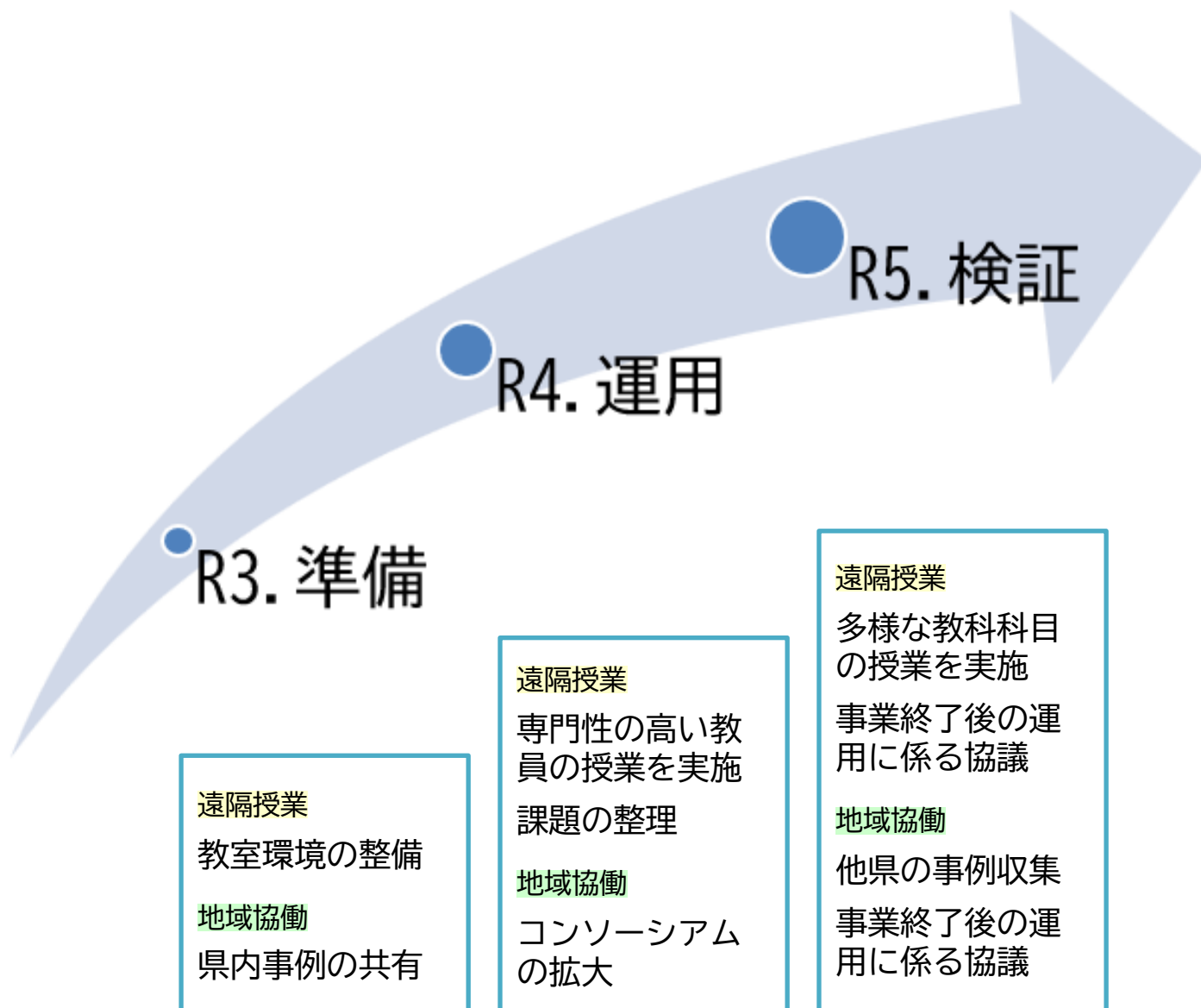
多様な教科・  
科目の開設

習熟に応じた  
学習支援

官民学による  
地域協働活動

## 目指したい姿

- ① 教科教育力の向上（多様な進路への対応）
- ② 中山間地域における小規模校の魅力の最大化



地域協働

地域の強みと魅力を最大化する教育体制

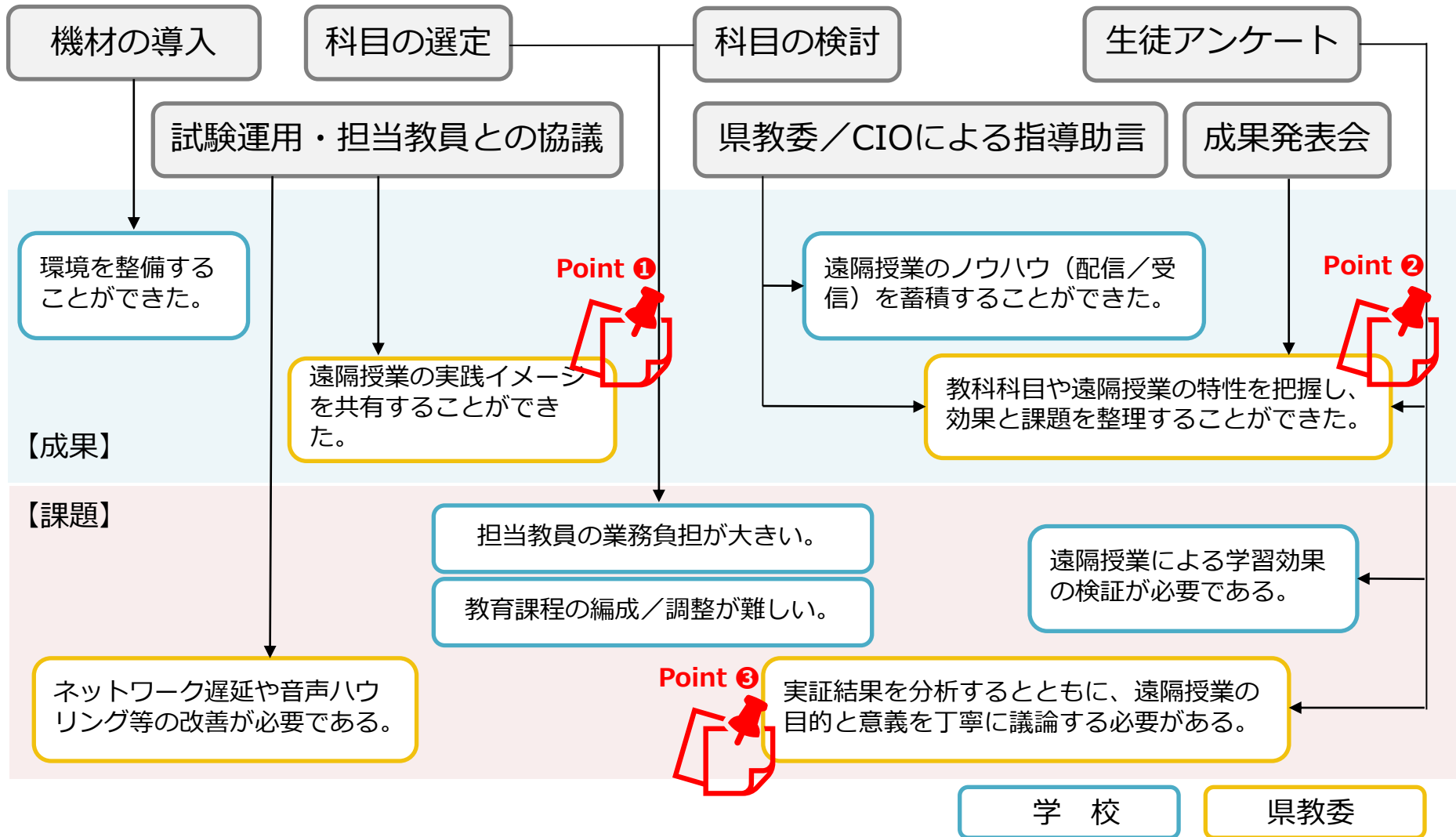
遠隔授業

生徒の多様な進路に対応できる教育環境

## R3. 準備

## R4. 運用

## R5. 検証





- ・ 基本的に、マイクは、生徒が座っている座席に近くにおいてあるが、書画カメラでプリントを見せる際は、書画カメラ付近に移動させる。
- ・ 大型ディスプレイが反射して見えなくなることがあるので、その際は暗幕をする。

## 【授業の準備】

- ① 写真のように機器を設置する(教員)。なお、大型ディスプレイは、配信校の黒板に見立てて設置している。
- ② Chrome book を開き、各自でログインする。
- ③ Google Classroom「高千穂高校物理」を選択。
- ④ Google Meet で「参加」する。
- ⑤ 拡張機器のマイク・スピーカーをつなげているPC以外のPCマイク・スピーカーはは全て切る。



## 【実証1】 担当する教員の授業デザインを尊重した配信環境づくり (写真：物理 I の場合)

- 対面授業と見劣りしない、**双方向でのやりとり (発問・支援)** が実現できた。
- **ネットワークの遅延や音声のハウリング等、改善すべき箇所が明らかとなった。**



# 6 Point② 効果と課題を「整理」する



## 【本県における実施パターン】

- ① 教科指導力の高い教員による遠隔授業
- ② 専門性を有する教員による遠隔授業
- ③ オンライン特性を活かした遠隔授業



(物理探究)  
担当教員の指導力が高い場合、遠隔でも対面授業と同質の授業づくりが可能ではないか。

(情報Ⅰ)  
専門性を有する教員が担当する場合、受信側のニーズに合った実施が可能ではないか。

(美術Ⅰ)  
地理的条件を伴う場合、鑑賞教育の実施など、遠隔“だからこそ”の授業があるのではないか。

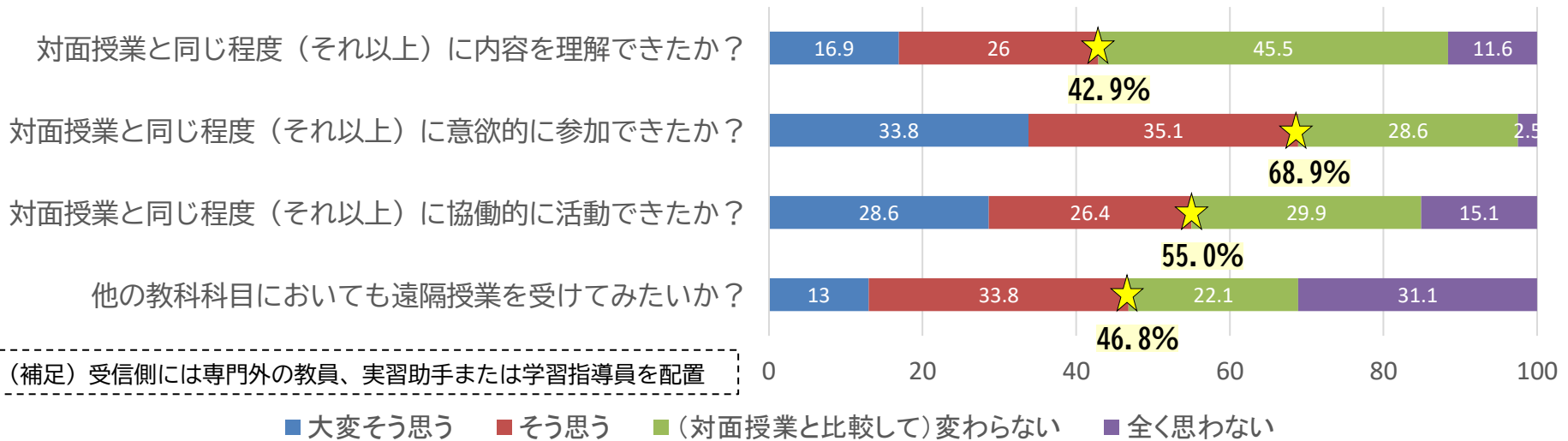
## 【実証2】教員が持つ強みを最大化し、生徒の学習ニーズに対応した実施パターン

- ① 生徒数や教員の高い指導力が前提となるため、汎用的なモデルにはなりづらい。
- ② 学校間の双方が納得をして配信／受信する関係が構築されている必要がある。
- ③ 遠隔授業の良さ・強みを活かすことができる単元を適切に設定する必要がある。

# 7 Point③ 生徒の実感を「分析」する



## 受信校の生徒を対象にしたアンケート調査より（本県独自）



(補足) 受信側には専門外の教員、実習助手または学習指導員を配置

### 【実証3】遠隔授業という「新しい学び方」を生徒がどのように捉えているか？

- 多くの生徒は、遠隔授業に対して特別な感覚を持つことなく受講できている。
- 遠隔授業を担当する教員がオンラインの特性を理解し、授業設計を工夫することによって、対面授業と同じ程度（それ以上）の協働的な学びが実現できている。
- 学習の理解や定着について、生徒・教員それぞれが実感として掴むことができていない現状にあり、学習評価の手法と合わせて、引き続き検証する必要がある。
- 遠隔授業を単に「対面授業の代替」として捉えることがないよう、生徒・保護者に丁寧な理解を求めることが重要である。



## R3. 準備

## R4. 運用

## R5. 検証

総合的な探究の時間での実践

MSEC/シンポジウム

既存の取組を活用し、新たな負担なく地域協働を進めることができた。

Point ①

地域協働型の探究活動を県内に共有することができた。

【成果】

【課題】

学校主催と県主催の取組が重複する場合があります、担当者に負担が生じている。

地元自治体や関係部署との関わり方や、地域協働に関わる各種取組の方向性について、学校との丁寧な目線合せが必要である（管理機関としての役割の整理）。

コーディネーターの委嘱（高千穂町）

GIAHSスタディツアー（県北）

CNによる幅広い業務支援のもと、自治体や地域住民と連携した地域協働型の探究活動を実践できた。

CNによる業務支援の有効性を確認することができた。

コンソーシアム構成員が協働した活動を実施できた。

地元自治体や関係部署と連絡・調整を行う担当者（教員）の負担が大きい。

Point ②

Point ③

予算措置や人的支援の裏付けとなる基本方針を熟議する必要がある。

学 校

県教委



みやざきハイスクール  
EXPO  
参加費  
**無料**  
但し、登録が  
必要です  
2021

県立コミュニティ・スクール  
オンライン シンポジウム

参加校  
発表エントリ校 (4校)

県立コミュニティ・スクール (6校)	発表エントリ校 (4校)
高千穂高等学校、門川高等学校、妻高等学校	佐土原高等学校、都城農業高等学校
本庄高等学校、新野高等学校、福島高等学校	宮崎南高等学校、小林高等学校

日時 令和3年 12月 19日 (日) 13:00~16:30

Miyazaki SDGs Education Consortium



Miyazaki SDGs Education Consortium

県内18校が加盟する探究コンソーシアム  
… 地域との協働から生まれる探究的な学び  
の成果の普及ならびに共有を行う

### 【実証1】既存の枠組み（地域協働・探究）を活用した県域ネットワークづくり

- 既存の枠組みを活用したことで、**教員や生徒に新たな負担を生じることなく、円滑に実施することができた。**
- **ネットワーク校以外の県内高校生や教員、保護者**に対して本事業の取組を周知する機会となった。
- オンライン開催になったこともあり、事例共有や情報交換にとどまってしまう、**学校や地域の枠組みを越えた取組に展開することができなかった。**



### 【実証2】コンソーシアム構成員との協働による探究学習プログラムの開発

- コンソーシアム構成員 ※ が協働し、探究プログラムを企画ならびに運営することによって、**地域協働に対する理解を深めることができた。**

※高千穂高校、五ヶ瀬中等教育学校、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会、宮崎県教育庁高校教育課

- 今後の自走化に向けて、予算確保や外部連携のための仕組みづくり等、**学校と行政、さらに地域の垣根を越えた議論を本格的に進める必要がある。**



## 【高千穂町の実践事例】



全体統括役

連絡調整役

現場相談役

## プロデュース機能

地域と学校の  
ビジョンを創る

## マネジメント機能

地域と学校の  
足並みを揃える

## サポート機能

地域と学校の  
活動を支える

## 【実証3】 地方自治体の主導による魅力化コーディネーターの配置（高千穂町）

- コーディネーターによる業務支援の有効性を実感するとともに、その役割を整理することができた。
- 県立学校におけるコーディネーターの配置について、高千穂町での実践事例が今後の協議における1つのモデルケースとなった。
- 他県の事例（R5.11月県外視察@島根県）を参考にしながら、予算措置や人的支援の裏付けとなる本県の基本方針について、熟議を重ねていく必要がある。

## 配信担当の教員

「思いっきり褒めたたえたいですけど、それができないですよ。もちろんこの画面越しにはできるんですけど、もっとライブ感を持って、『ここに気付いたのすごいね！』みたいなのを目指したい。」

地元放送局の取材記事より一部抜粋

## 受信側の生徒

「先生が離れていても、対面して授業を受けている感じ。」

「（専門の）先生でしか説明できない言葉とか、わかりやすさとかあるから受けていて楽しいと感じます。」

地元放送局の取材記事より一部抜粋

## 運営指導委員会

「遠隔授業の取組を通して、対面授業にも活かすことができる部分や授業改善のポイントに気づくことができた。」

「地域内のコンソーシアムだけでなく、複数のコンソーシアムが広域で連携することができれば、地方にはないリソースを活用して、より魅力的な教育活動の実現が可能になるかもしれない。」



## 目指したい姿

- ① 教科教育力の向上（多様な進路への対応） ② 中山間地域における小規模校の魅力の最大化

## Keep（成果）

① 遠隔授業を活用することで、**専門性の高い教員による授業**を開設することが出来た。また、担当教員が**授業改善に取り組む機会**となった。

② 都市部とは異なる新たな教育活動（遠隔授業・地域連携）を実践することで、**小規模校“ならでは”の魅力**を高めることが出来た。

## Problem（課題）

① **担当教員のニーズに応じた定期的な支援**（遠隔授業に特化した研修や情報交換、先進地視察等）を十分に行うことが出来なかった。

② 本事業の取組を県民に広く周知し、**小規模校の魅力を発信する機会**（メディアの活用等）を十分に設定することが出来なかった。

## Try（改善）

① 遠隔授業の強みと特性を整理し、授業改善の視点に重点を置きながら、**本県における遠隔授業の活用の最適化**を図りたい。

② 中長期的なビジョンをもって、本県の県立高校それぞれが**担うべき役割（スクールミッション）**を再整理し、小規模校がもつ魅力を明確にしたい。

## 高等学校教育の在り方ワーキンググループ 中間まとめ（令和5年9月1日）

### 実現したい在り方

県内いずれの高等学校に進学した生徒に対しても、生徒一人一人の個性や実情に応じた多様な可能性を伸ばす「**多様性への対応**」が可能な域内の学校間ネットワークを構築するとともに、社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を共通して身に付けられるよう、遠隔教育等を積極的に活用して「**共通性の確保**」が実現できる教育課程を編成する。

### 実現に向けた方針

- ① 本県において遠隔授業を行う意義（必要性／必然性）を再整理し、**配信拠点の検討・検証を進める。**
- ② **地域の核として県立高校を位置付け**、次期「宮崎県高等学校整備基本計画」に反映させる。

#### 遠隔教育／通信教育の活用

- ✓ 多様な生徒のニーズに対応した学びの機会を提供
- ✓ 教員の専門性とICTの強みを融合させた授業の改善

#### 地域協働を支える基盤づくり

- ✓ 地域の特色を活かした魅力あふれる教育活動の展開
- ✓ 各コンソーシアムの充実と広域連携

